

低エネルギー換羽飼料を用いた誘導換羽が北海地鶏Ⅱ雌種鶏の産卵成績に及ぼす影響

○國重享子・山内和律・中村直樹・藤川朗（北海道畜試）

[目的]低エネルギー飼料による誘導換羽は、採卵鶏や卵用名古屋で検討され、鶏への負担が少なく強制換羽と同様の効果があることが示されている。しかし、肉用地鶏の雌種鶏に対する有効性は不明である。そこで北海地鶏Ⅱ雌種鶏に対して誘導換羽を行い、産卵成績に及ぼす影響を検討した。**[方法]****試験 1:**ふすま主体換羽飼料(1,880kcal/kg)による誘導換羽を行った。供試鶏は北海地鶏Ⅱ雌種鶏(シャモ雄とロトアイントレット雌のF₁)を用いた。換羽期間は50週齢から体重が25%減少するまでとした。試験区は誘導換羽を行った区(「誘導区」)、強制換羽を行った区(「強制区」)、飽食給与した区(以下「飽食区」)とした。誘導区及び飽食区は不断給餌とした。**試験 2:**試験1で用いたふすま主体換羽飼料に粳殻を混和した飼料を用いて誘導換羽を行った。試験区は粳殻を重量比で50%混和した区(以下「50%区」)、75%混和した区(以下「75%

区」)、強制区及び飽食区とした。**[結果]****試験 1:**換羽後の産卵率は誘導区では71.0%であり、飽食区の54.1%及び強制区の64.5%より高かった。しかし強制区では換羽期間が21日、産卵停止が9日後に対し、誘導区では67日、産卵は停止しなかった。**試験 2:**75%区の換羽期間は30日、産卵停止が9日後に対し、50%区では産卵が停止しなかった。換羽後の産卵率は75%区では63.6%であり、強制区の60.0%及び飽食区の58.8%よりやや高かった。70%以上産卵週数は75%区が8週と最も長かった。産卵停止までの体重変化は、75%区が-67.5g/日と強制区の-113.5g/日より少なく、鶏への負担が低いと考えられた。以上から北海地鶏Ⅱ雌種鶏に対し、ふすま主体換羽用飼料に粳殻を重量比で75%混和した飼料により誘導換羽が可能で、産卵率も向上することが明らかになった。